

15 子産み・子育ての意識

子産み・子育ての意識として、子産み・子育てがもたらすよい面、子産み・子育てにともなう負担感、そして、親としての社会的責任感について検討する。子産み・子育ての意識については、調査票では、問 23 (ア) から (シ) と、問 10 (ク) を用いる。なお、問 23 は、若年層のみが対象である。

15-1 子産み・子育てがもたらすよい面

子産み・子育てがもたらすよい面として、本調査では、「家族の結びつきが深まる」、「子どもとのふれあいが楽しい」、「仕事に、はりあいができる」、「子育てを通じて自分の友人が増える」、「子育てを通じて人間的に成長できる」の5項目を取り上げる。

はじめに、これら5項目について、男女の意識をみてみよう。

男女ともに、「家族の結びつきが深まる」「子どもとのふれあいが楽しい」という意識の支持率が高く、「そう思う」という比率がいずれも70%を超えている。そして、これらの意識については、男女の有意差はみられない。さらに、女性では、「子育てを通じて人間的に成長できる」という項目で、「そう思う」という比率が72%と高い。

男女差をみると、「仕事に、はりあいができる」という項目では、「そう思う」という比率が、女性の51%に対して男性は60%と高く、他方、「子育てを通じて自分の友人が増える」という項目では、男性はわずか32%に対して女性は57%と高く、「子育てを通じて人間的に成長できる」という項目では、男性58%に対して女性は72%と高い。

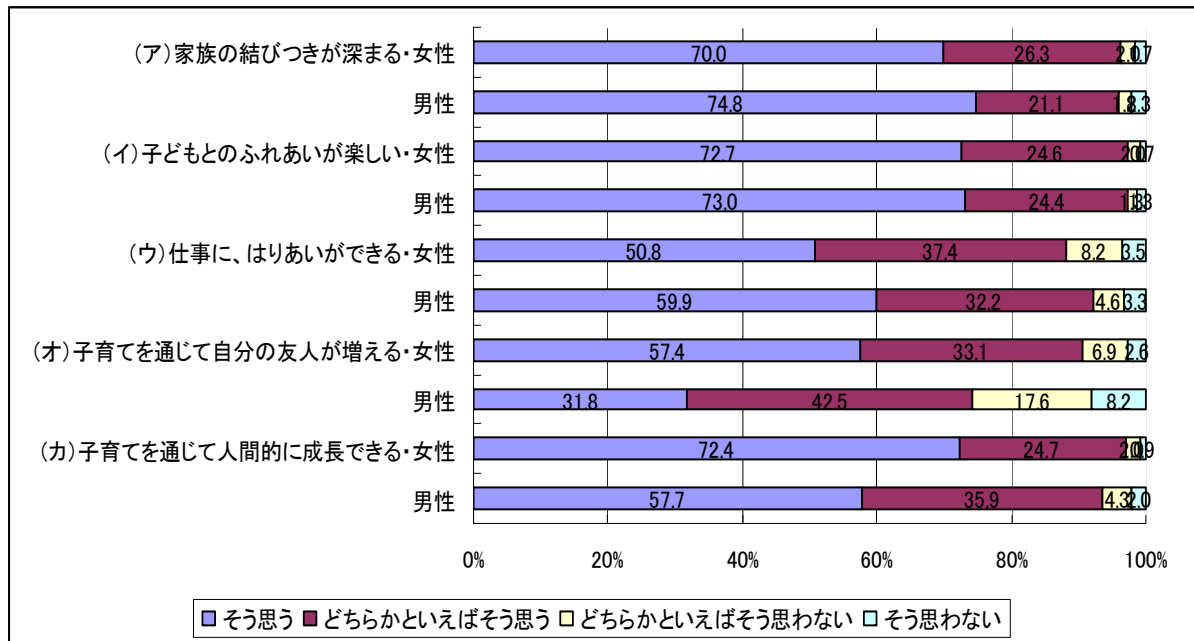


図 15-1 子産み・子育てがもたらすよい面の評価にみる男女差

男女別に、28-37歳（1966-1975年出生）と38-47歳（1956-1965年出生）と比べてみると、いずれの項目においても、支持率にコーホート差はみられなかった。

それでは、子産み・子育てがもたらすよい面の評価に関連があると思われる要因として、配偶状態、子どもの有無、就業状態等について検討する。

子産み・子育てがもたらすよい面として、「家族の結びつきが深まる」、「子どもとのふれあいが楽しい」、「子育てを通じて人間的に成長できる」という評価については、男女ともに、有配偶者が無配偶者よりも統計的に有意に「そう思う」という評価が高いという結果になっている。しかし、「仕事に、はりあいができる」という項目については、男女ともに、有配偶者と無配偶者との間に有意差はみられない。また、「子育てを通じて、自分の友人が増える」という評価は、男性の場合は、配偶状態による差はみられないが、女性の場合は、有配偶者が無配偶者よりも有意に高くなっている。

表15-1（ア）家族の結びつきが深まる

		N	そう思う	どちらかといえば	
				そう思う	そう思わない
男性	全体	1095	74.8	21.1	1.8
	有配偶	816	78.4	18.4	1.3
	無配偶	279	64.2	29.0	3.2
女性	全体	1383	70.0	26.3	2.0
	有配偶	1124	72.6	24.3	2.0
	無配偶	259	58.7	35.1	2.3

男性・配偶状態 p<.001 女性・配偶状態 p<.001

表15-2（イ）子どもとのふれあいが楽しい

		N	そう思う	どちらかといえば	
				そう思う	そう思わない
男性	全体	1093	73.0	24.4	1.3
	有配偶	815	76.9	21.3	1.1
	無配偶	278	61.5	33.5	1.8
女性	全体	1384	72.7	24.6	2.0
	有配偶	1127	75.8	22.5	1.3
	無配偶	257	59.1	33.5	5.1

男性・配偶状態 p<.001 女性・配偶状態 p<.001

表15-3（ウ）仕事に、はりあいができる

		N	そう思う	どちらかといえば	
				そう思う	そう思わない
男性	全体	1095	59.9	32.2	4.6
	有配偶	816	61.0	31.6	4.5
	無配偶	279	56.6	34.1	4.7
女性	全体	1373	50.8	37.4	8.2
	有配偶	1115	51.7	37.6	7.5
	無配偶	258	46.9	36.8	11.2

男性・配偶状態 n. s. 女性・配偶状態 n. s.

表15-4 (オ) 子育てを通じて自分の友人が増える

		N	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
男性	全体	1092	31.8	42.5	17.6	8.2
	有配偶	816	31.6	41.3	19.0	8.1
	無配偶	276	32.2	46.0	13.4	8.3
女性	全体	1381	57.4	33.1	6.9	2.6
	有配偶	1124	60.9	31.6	5.7	1.9
	無配偶	257	42.4	39.7	12.1	5.8

男性・配偶状態 n. s. 女性・配偶状態 p<.001

表15-5 (カ) 子育てを通じて人間的に成長できる

		N	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
男性	全体	1091	57.7	35.9	4.3	2.0
	有配偶	815	58.7	36.1	3.9	1.3
	無配偶	276	55.1	35.5	5.4	4.0
女性	全体	1382	72.4	24.7	2.0	0.9
	有配偶	1126	73.5	24.7	1.4	0.4
	無配偶	256	67.2	25.0	4.3	3.5

男性・配偶状態 p<.05 女性・配偶状態 p<.001

次に、男女別に、子どもの有無が、子産み・子育てのよいと思う評価と関連があるかどうかをみると、女性の場合、すべての項目において、子どもがいる場合がない場合よりも「そう思う」という比率が有意に高い。また、男性の場合も、「子育てを通じて友人が増える」という項目のみ、子どもの有無による意識の差はみられないものの、他の項目では、いずれも、子どもがいる場合のほうがない場合よりも、子産み・子育てにともなうよい面を評価する傾向が高い。

表15-6 (ア) 家族の結びつきが深まる

		N	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
男性	全体	1071	74.9	21.2	1.8	2.1
	子ども無	339	63.4	28.9	2.9	4.7
	子ども有	732	80.2	17.6	1.2	1.0
女性	全体	1371	70.0	26.3	2.0	1.7
	子ども無	262	57.6	36.3	2.3	3.8
	子ども有	1109	72.9	23.9	2.0	1.2

男性・子どもの有無 p<.001 女性・子どもの有無 p<.001

表15-7 (イ) 子どもとのふれあいが楽しい

		N	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
男性	全体	1069	73.1	24.4	1.2	1.3
	子ども無	338	59.8	34.3	2.1	3.8
	子ども有	731	79.2	19.8	0.8	0.1
女性	全体	1372	72.7	24.6	2.0	0.7
	子ども無	260	55.4	36.2	5.8	2.7
	子ども有	1112	76.7	21.9	1.1	0.3

男性・子どもの有無 p<.001 女性・子どもの有無 p<.001

表15-8 (ウ) 仕事に、はりあいができる

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1071	59.9	32.3	4.6	3.3
	子ども無	339	54.9	33.6	5.6	5.9
	子ども有	732	62.2	31.7	4.1	2.0
女性	全体	1361	50.9	37.3	8.2	3.5
	子ども無	262	40.5	40.1	14.5	5.0
	子ども有	1099	53.4	36.7	6.7	3.2

男性・子どもの有無 p<.01 女性・子どもの有無 p<.001

表15-9 (オ) 子育てを通じて自分の友人が増える

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1068	31.5	42.8	17.6	8.1
	子ども無	336	33.0	44.0	13.7	9.2
	子ども有	732	30.7	42.2	19.4	56.0
女性	全体	1369	57.6	32.9	6.9	2.6
	子ども無	259	39.8	45.6	10.4	4.2
	子ども有	1110	61.8	29.9	6.0	2.3

男性・子どもの有無 n.s. 女性・子どもの有無 p<.001

表15-10 (カ) 子育てを通じて人間的に成長できる

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1068	57.7	36.2	4.1	2.0
	子ども無	337	54.9	35.9	4.7	4.5
	子ども有	731	59.0	36.4	3.8	0.8
女性	全体	1370	72.4	24.7	2.0	0.9
	子ども無	260	65.0	28.8	2.7	3.5
	子ども有	1110	74.1	23.7	1.8	0.4

男性・子どもの有無 p<.01 女性・子どもの有無 p<.001

それでは、子産み・子育てがもたらすよい面の評価は、子どもの有無別・有配偶別ではどのように違いがみられるだろうか。

「家族の結びつきが深まる」という評価の場合、子どものいない場合、有配偶者も無配偶者も男女差がみられず、また、子どもがいる場合でも、無配偶者では男女差がみられないが、子どものいる有配偶者については、男性が女性よりも有意に評価が高いという結果になっている。次に、「子どもとのふれあいが楽しい」という評価については、子どもの有無、配偶状態の違いに関わりなく、男女差はみられない。「仕事に、はりあいができる」という評価の場合、有配偶者の場合には、子どものいる場合もいない場合も、男性が女性よりも「そう思う」という比率が有意に高くなっている。また、無配偶で子どものいない場合にも、男性が女性よりも肯定的に評価する傾向にある。しかし、子どものいる無配偶の男女では、評価の仕方に有意差がみられない。

「子育てを通じて自分の友人が増える」という評価については、子どもの有無に関わりなく、有配偶者において、女性が男性よりも、「そう思う」という肯定的評価が有意に高い。しかし、無配偶者においては、子どもの有無に関わりなく、男女差はみられない。そして、「子育てを通じて人間的に成長できる」という評価は、子どもがいる有配偶者において、女性が男性よりも「そう思う」と評価する傾向が有意に高い。ただし、子どもがいる無配偶者や子どものいない人びとにおいては、男女差はみられない。

表15-11 (ア) 家族の結びつきが深まる

			N	そう思う	どちらかといえば		どちらかといえば	
					そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無	有配偶	全体	197	58.4	33.0	2.5	6.1	
		男性	105	61.9	26.7	2.9	8.6	
		女性	92	54.3	40.2	2.2	3.3	
	無配偶	全体	404	62.1	31.7	2.7	3.5	
		男性	234	64.1	29.9	3.0	3.0	
		女性	170	59.4	34.1	2.4	4.1	
子ども有	有配偶	全体	1743	76.9	20.5	1.6	0.9	
		男性	711	80.9	17.2	1.1	0.8	
		女性	1032	74.2	22.9	1.9	1.0	
	無配偶	全体	98	56.1	36.7	3.1	4.1	
		男性	21	57.1	33.3	4.8	4.8	
		女性	77	55.8	37.7	2.6	3.9	

子ども無・有配偶・男女 n. s. 子ども無・無配偶・男女 n. s. 子ども有・有配偶・男女 p<.05 子ども有・無配偶・男女 n. s.

表15-12 (イ) 子どもとのふれあいが楽しい

			N	そう思う	どちらかといえば		どちらかといえば	
					そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無	有配偶	全体	197	58.4	34.5	4.6	2.5	
		男性	105	61.0	31.4	3.8	3.8	
		女性	92	55.4	38.0	5.4	1.1	
	無配偶	全体	401	57.6	35.4	3.2	3.7	
		男性	233	59.2	35.6	1.3	3.9	
		女性	168	55.4	35.1	6.0	3.6	
子ども有	有配偶	全体	1745	78.3	20.6	0.9	0.2	
		男性	710	79.3	19.9	0.7	0.1	
		女性	1035	77.6	21.2	1.0	0.3	
	無配偶	全体	98	67.3	29.6	3.1		
		男性	21	76.2	19.0	4.8		
		女性	77	64.9	32.5	2.6		

いずれも有意差なし

表15-13 (ウ) 仕事に、はりあいができる

			N	そう思う	どちらかといえば		どちらかといえば	
					そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無	有配偶	全体	197	45.2	38.1	10.7	6.1	
		男性	105	54.3	31.4	6.7	7.6	
		女性	92	34.8	45.7	15.2	4.3	
	無配偶	全体	404	50.2	35.6	8.9	5.2	
		男性	234	55.1	34.6	5.1	5.1	
		女性	170	43.5	37.1	14.1	5.3	
子ども有	有配偶	全体	1734	56.9	34.7	5.8	2.7	
		男性	711	62.0	31.6	4.2	2.1	
		女性	1023	53.3	36.9	6.8	3.0	
	無配偶	全体	97	57.7	34.0	4.1	4.1	
		男性	21	66.7	33.3			
		女性	76	55.3	34.2	5.3	5.3	

子ども無・有配偶・男女 p<.05 子ども無・無配偶・男女 p<.01 子ども有・有配偶・男女 p<.01 子ども有・無配偶・男女 n. s.

表15-14 (オ) 子育てを通じて自分の友人が増える

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無 有配偶	全体	196	36.2	44.4	12.2	7.1
	男性	105	35.2	38.1	15.2	11.4
	女性	91	37.4	51.6	8.8	2.2
無配偶	全体	399	35.8	44.9	12.3	7.0
	男性	231	32.0	46.8	13.0	8.2
	女性	168	41.1	42.3	11.3	5.4
子ども有 有配偶	全体	1744	49.9	34.7	11.2	4.2
	男性	711	31.1	41.8	19.5	7.6
	女性	1033	62.9	29.8	5.4	1.8
無配偶	全体	98	40.8	36.7	14.3	8.2
	男性	21	19.0	57.1	14.3	9.5
	女性	77	46.8	31.2	14.3	7.8

子ども無・有配偶・男女 p<.05 子ども無・無配偶・男女 n. s. 子ども有・有配偶・男女 p<.001 子ども有・無配偶・男女 n. s.

表15-15 (カ) 子育てを通じて人間的に成長できる

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無 有配偶	全体	198	58.6	34.3	4.0	3.0
	男性	105	56.2	33.3	5.7	4.8
	女性	93	61.3	35.5	2.2	1.1
無配偶	全体	399	59.6	32.1	3.8	4.5
	男性	232	54.3	37.1	4.3	4.3
	女性	167	67.1	25.1	3.0	4.8
子ども有 有配偶	全体	1743	68.3	28.9	2.3	0.5
	男性	710	59.0	36.5	3.7	0.8
	女性	1033	74.6	23.7	1.4	0.3
無配偶	全体	98	65.3	25.5	8.2	1.0
	男性	21	57.1	33.3	9.5	
	女性	77	67.5	23.4	7.8	1.3

子ども無・有配偶・男女 n. s. 子ども無・無配偶・男女 n. s. 子ども有・有配偶・男女 p<.001 子ども有・無配偶・男女 n. s.

就業状態の違いについてもみておこう。ただし、就業状態における有職と無職の違いについて言えば、男性の場合、無職者の実数が少ないため統計的に意味をなさない。そこで、女性に限って、子どもの有無別に、就業状態と子産み・子育てがもたらすよい面の評価との関連を検討した。その結果、表 15-16 から表 15-20 にみるように、いずれの項目においても有意差はみられないことがわかった。

表15-16 (ア) 家族の結びつきが深まる (女性)

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無	全体	262	57.6	36.3	2.3	3.8
	有職	213	57.7	36.2	2.8	3.3
	無職	49	57.1	36.7		6.1
子ども有	全体	1108	73.0	23.8	2.0	1.2
	有職	629	71.4	24.5	2.5	1.6
	無職	479	75.2	23.0	1.3	0.6

子ども無・就業状態 n. s. 子ども有・就業状態 n. s.

表15-17(イ) 子どもとのふれあいが楽しい (女性)

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無	全体	260	55.4	36.2	5.8	2.7
	有職	211	55.0	36.5	6.6	1.9
	無職	49	57.1	34.7	2.0	6.1
子ども有	全体	1111	76.7	22.0	1.1	0.3
	有職	632	75.5	22.9	1.3	0.3
	無職	479	78.3	20.7	0.8	0.2

子ども無・就業状態 n. s. 子ども有・就業状態 n. s.

表15-18 (ウ) 仕事に、はりあいができる (女性)

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無	全体	262	40.5	40.1	14.5	5.0
	有職	214	39.3	41.1	15.4	4.2
	無職	48	45.8	35.4	10.4	8.3
子ども有	全体	1098	53.4	36.7	6.7	3.2
	有職	631	56.4	33.9	7.0	2.7
	無職	467	49.3	40.5	6.4	3.9

子ども無・就業状態 n. s. 子ども有・就業状態 n. s.

表15-19(オ) 子育てを通じて自分の友人が増える (女性)

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無	全体	259	39.8	45.6	10.4	4.2
	有職	211	39.8	46.0	10.9	3.3
	無職	48	39.6	43.8	8.3	8.3
子ども有	全体	1109	61.9	29.9	6.0	2.3
	有職	630	61.7	30.2	5.6	2.5
	無職	479	62.0	29.6	6.5	1.9

子ども無・就業状態 n. s. 子ども有・就業状態 n. s.

表15-20 (カ) 子育てを通じて人間的に成長できる (女性)

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
子ども無	全体	260	65.0	28.8	2.7	3.5
	有職	212	65.1	29.2	2.8	2.8
	無職	48	64.6	27.1	2.1	6.3
子ども有	全体	1109	74.2	23.6	1.8	0.4
	有職	632	74.5	23.4	1.7	0.3
	無職	477	73.8	23.9	1.9	0.4

子ども無・就業状態 n. s. 子ども有・就業状態 n. s.

15-2 子産み・子育てにともなう負担感

子産み・子育ての負担感については、「子育てによる心身の疲れが大きい」、「子育てで出費がかさむ」、「自分の自由な時間がもてなくなる」、「仕事が十分にできなくなる」、「子育てがたいへんなことを身近な人が理解してくれない」、「社会から取り残されたような気になる」という6項目について、男女差、子どもの有無、配偶状態の違い、就業状態等の違いを検討する。

はじめに、男女差についてみると、子産み・子育てが負担であると感じている比率は、図15-2にみるように、すべての項目において、女性が男性よりも有意に高くなっているこ

とを指摘しておこう。

とりわけ、男女ともに、「子育てで出費がかさむ」という負担感が最も高く、男性では37%、女性でも43%が「そう思う」と回答している。

次いで、「自分の自由な時間がもてなくなる」という負担感について、男性の23%、女性の32%が「そう思う」と回答している。さらに、女性たちの20%以上が、「子育てによる心身の疲れが大きい」「仕事が十分にできなくなる」といった項目に、「そう思う」と回答している。

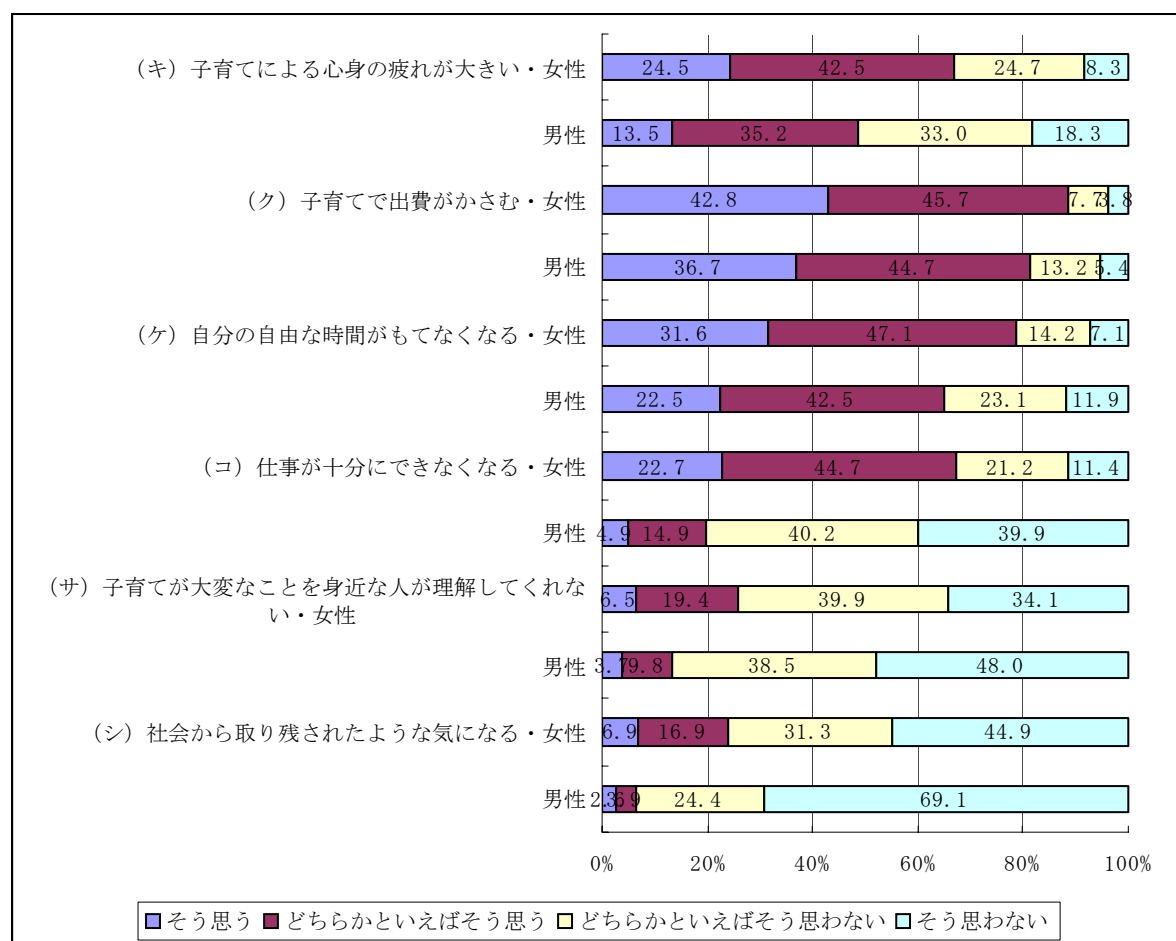


図 15-2 子産み・子育てにともなう負担感における男女差

次に、5歳きざみの世代差によって、子産み・子育てにともなう負担感がどのように異なるのか、男女別に検討する。図 15-3 から図 15-8 である。

「子育てによる心身の疲れが大きい」と「自分の自由な時間がもてなくなる」という負担感、男女ともに、世代が低いほど負担感を感じる傾向にあることがわかる。「子育てで出費がかさむ」という負担感の場合、男性では世代が低いほど負担感が高くなっているのに対して、女性ではいずれの世代も負担感が高い傾向にある。他方、「仕事が十分にできなくなる」と「社会から取り残されたような気になる」という負担感、男性では、世代差による相違はみられないが、女性では、世代が低いほど負担感をい込む傾向にあることがわかる。

総じて、男女ともに、世代が低いほど、子産み・子育てにともなう負担感が高い傾向にあるという結果になっているが、このような傾向をどのように理解すればよいのか、もう少し検討しよう。

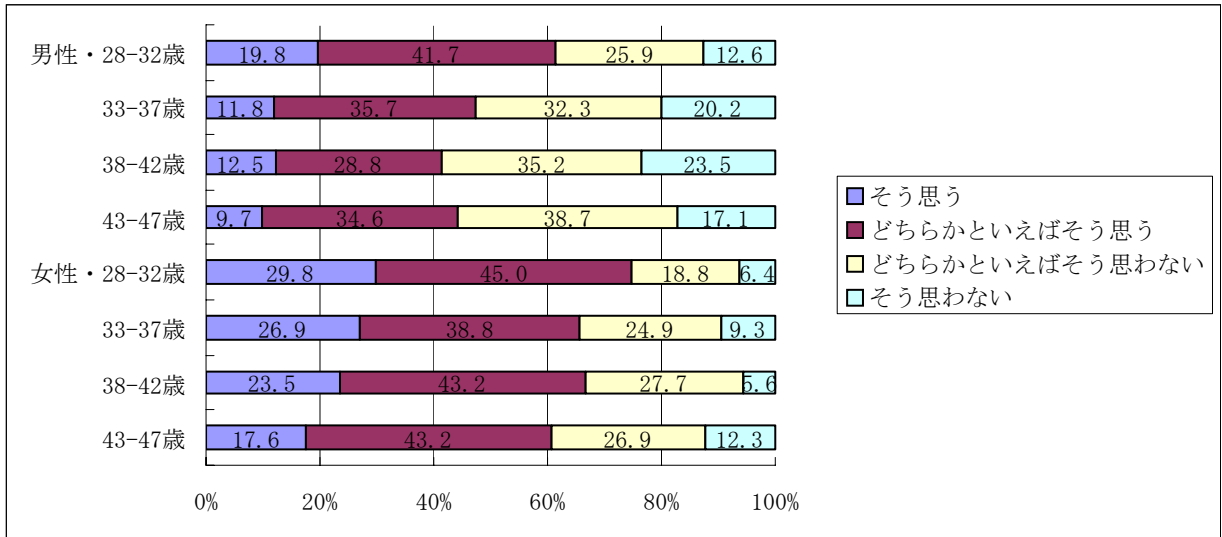


図 15-3 (キ) 子育てによる心身の疲れが大きい

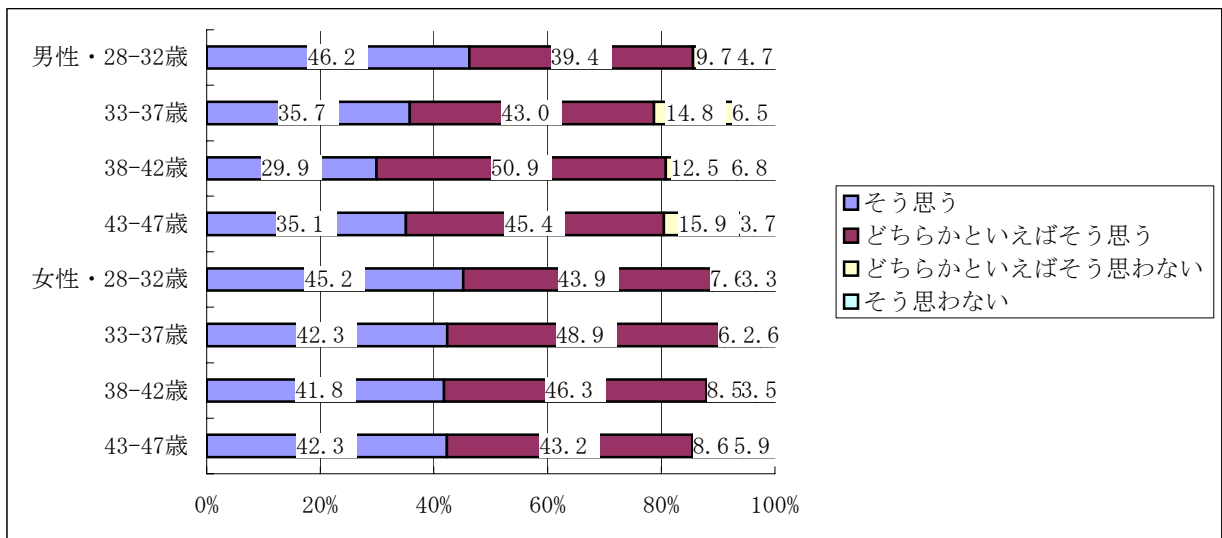


図 15-4 (ク) 子育てで出費がかさむ

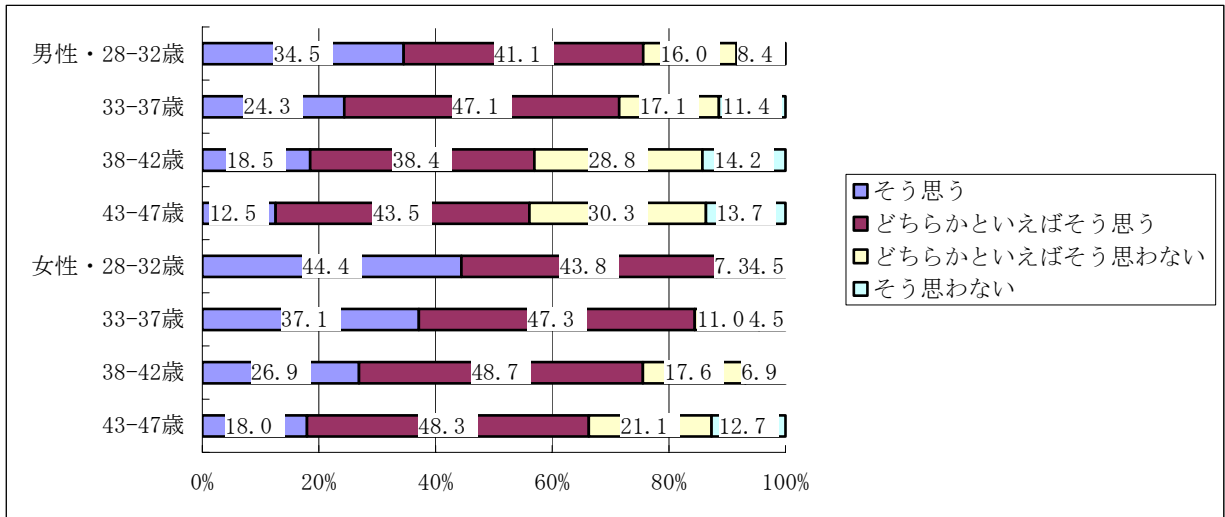


図 15-5 (ケ) 自分の自由な時間がもてなくなる

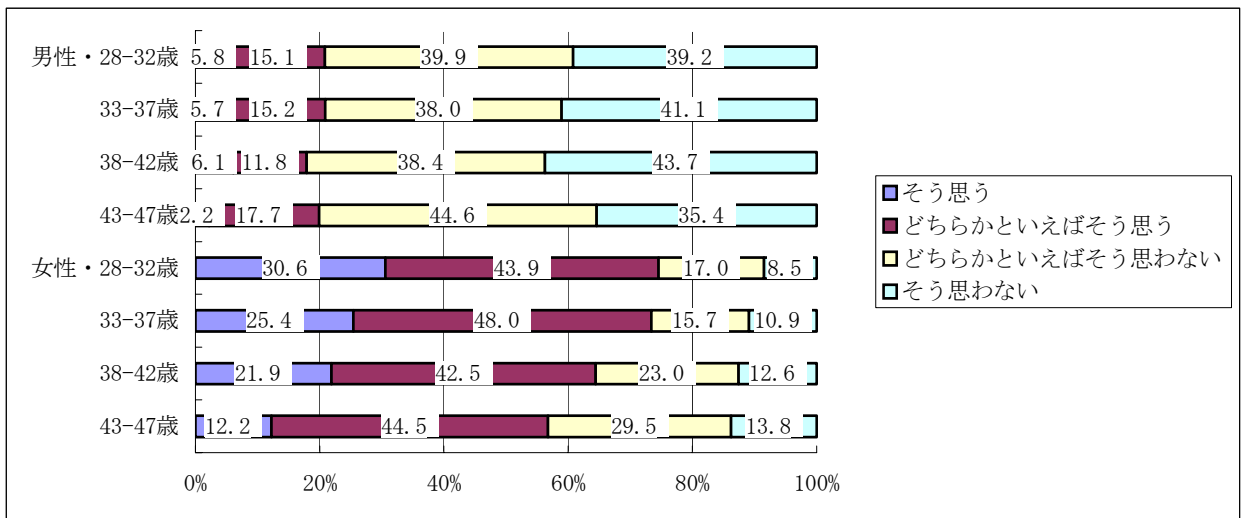


図 15-6 (コ) 仕事が十分にできなくなる

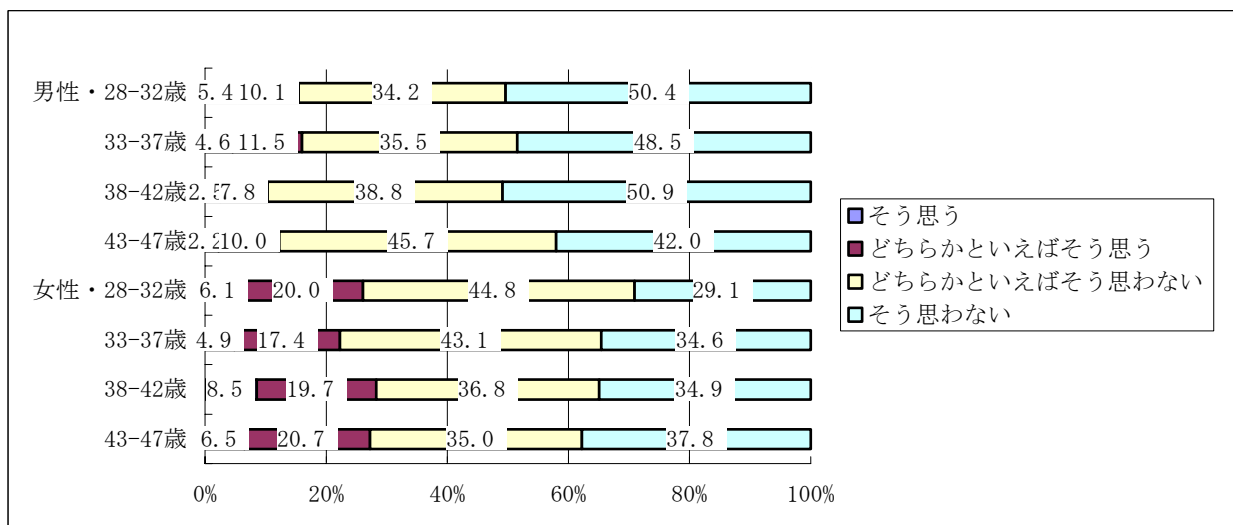


図 15-7 (サ) 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない

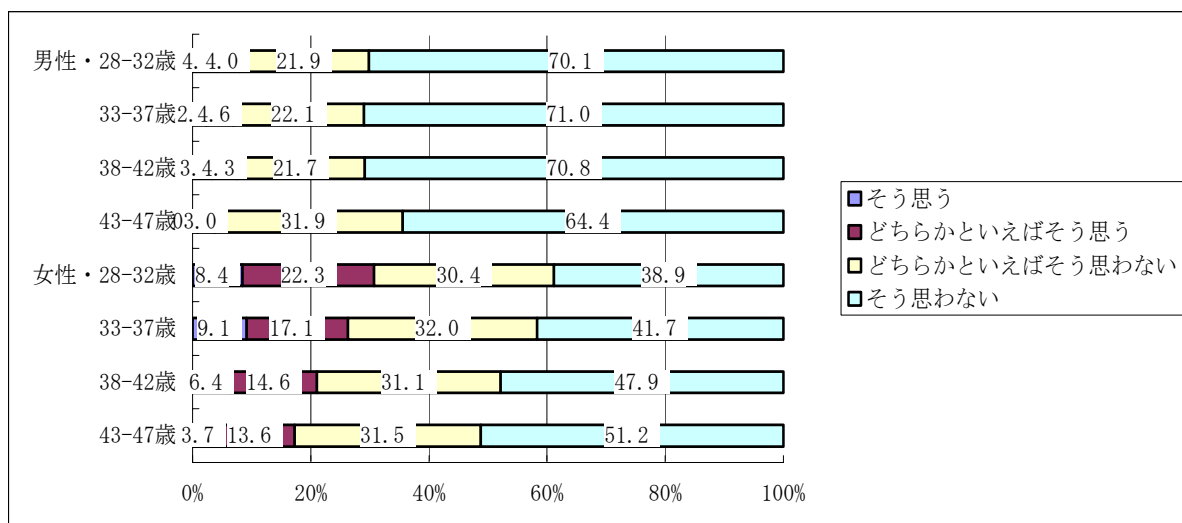


図 15-8 (シ) 社会から取り残されたような気になる

男女別に、配偶状態と、子産み・子育てにともなう負担感の捉え方との関連を検討したのが表 15-21 から表 15-26 である。

これらの表によると、男女ともに、有配偶者よりも無配偶者のほうが、いずれの負担感も有意に高いという結果になっている。たとえば、「子育てで出費がかさむ」という項目では、「そう思う」という比率が、男性・有配偶者が 33% に対して、男性・無配偶者では 48% と高く、女性・有配偶者が 41% に対して、女性・無配偶者では 51% と、男女ともに有配偶者と無配偶者との差が顕著である。また、「自分の自由な時間がもてなくなる」という項目においても、「そう思う」という比率は、男性・有配偶者が 19% に対して、男性・無配偶者では 34% であり、女性・有配偶者が 30% に対して、女性・無配偶者では 40% となっている。さらに、「仕事が十分にできなくなる」という項目において、女性・有配偶者は 21% に対して、女性・無配偶者では 32% と開きが大きい。

表15-21 (キ) 子育てによる心身の疲れが大きい

	N	そう思う	どちらかといえば		
			そう思う	そう思わない	
男性 全体	1091	13.5	35.2	33.0	18.3
有配偶	815	10.6	32.3	36.2	21.0
無配偶	276	22.1	43.8	23.6	10.5
女性 全体	1381	24.5	42.5	24.7	8.3
有配偶	1127	23.1	41.9	26.3	8.8
無配偶	254	30.7	45.3	17.7	6.3

男性・配偶状態 p<.001 女性・配偶状態 p<.01

表15-22 (ク) 子育てで出費がかさむ

		N	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
				そう思う	そう思わない	
男性	全体	1092	36.7	44.7	13.2	5.4
	有配偶	816	32.8	45.3	16.1	5.8
	無配偶	276	48.2	42.8	4.7	4.3
女性	全体	1382	42.8	45.7	7.7	3.8
	有配偶	1126	41.0	46.4	8.4	4.2
	無配偶	256	50.8	42.6	4.7	2.0

男性・配偶状態 p<.001 女性・配偶状態 p<.01

表15-23 (ケ) 自分の自由な時間がもてなくなる

		N	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
				そう思う	そう思わない	
男性	全体	1090	22.5	42.5	23.1	11.9
	有配偶	815	18.8	42.1	25.4	13.7
	無配偶	275	33.5	43.6	16.4	6.5
女性	全体	1383	31.6	47.1	14.2	7.1
	有配偶	1127	29.7	47.3	15.5	7.4
	無配偶	256	39.8	46.1	8.6	5.5

男性・配偶状態 p<.001 女性・配偶状態 p<.01

表15-24 (コ) 仕事が十分にできなくなる

		N	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
				そう思う	そう思わない	
男性	全体	1091	4.9	14.9	40.2	39.9
	有配偶	814	4.2	13.1	38.6	44.1
	無配偶	277	7.2	20.2	45.1	27.4
女性	全体	1373	22.7	44.7	21.2	11.4
	有配偶	1117	20.5	44.1	23.0	12.4
	無配偶	256	32.0	47.3	13.3	7.4

男性・配偶状態 p<.001 女性・配偶状態 p<.001

表15-25 (サ) 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない

		N	そう思う	どちらかといえば		そう思わない
				そう思う	そう思わない	
男性	全体	1090	3.7	9.8	38.5	48.0
	有配偶	816	2.2	8.2	37.9	51.7
	無配偶	274	8.0	14.6	40.5	36.9
女性	全体	1378	6.5	19.4	39.9	34.1
	有配偶	1123	6.1	19.6	38.6	35.7
	無配偶	255	8.6	18.8	45.5	27.1

男性・配偶状態 p<.001 女性・配偶状態 p<.05

表15-26(シ) 社会から取り残されたような気になる

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1091	2.6	3.9	24.4	69.1
	有配偶	816	2.0	3.1	22.8	72.2
	無配偶	275	4.4	6.5	29.1	60.0
女性	全体	1382	6.9	16.9	31.3	44.9
	有配偶	1125	7.1	16.9	29.4	46.6
	無配偶	257	6.2	16.7	39.3	37.7

男性・配偶状態 p<.001 女性・配偶状態 p<.05

子どもの有無と子産み・子育てにともなう負担感との関連についても検討しよう。表 15-27 から表 15-32 によると、「子育てによる心身の疲れが大きい」、「子育てで出費がかさむ」、「自分の自由な時間がもてなくなる」、「仕事が十分にできなくなる」、「社会から取り残されたような気になる」という項目において、男女ともに、子どものいる場合よりも子どもがいない場合のほうが、「そう思う」という比率が有意に高くなっている。ただし、「子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない」という項目においては、男性は、子どものいない人のほうが子どものいる人よりも「そう思う」という比率が高いものの、女性の場合、「そう思う」という比率は、子どものいる人のほうが子どものいない人よりもわずかならが高くなっている。とはいえ、「そう思わない」という比率では、子どものいない人よりも子どものいる人のほうが 15 ポイント近く高くなっている。

総じて言えることは、子産み・子育てにともなう負担感について、子どものいる男性が最も負担感を感じておらず、子どものいない女性が最も負担感を感じているということである。

表15-27 (キ) 子育てによる心身の疲れが大きい

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1068	13.3	34.9	33.2	18.5
	子ども無	337	21.7	45.1	23.1	10.1
	子ども有	731	9.4	30.2	37.9	22.4
女性	全体	1369	24.2	42.5	24.9	8.4
	子ども無	257	32.7	48.6	15.2	3.5
	子ども有	1112	22.2	41.1	27.2	9.5

男性・子どもの有無 p<.001 女性・子どもの有無 p<.001

表15-28 (ク) 子育てで出費がかさむ

		N	そう思う	どちらかといえば		どちらかといえば	
				そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1069	36.5	44.6	13.5	5.4	
	子ども無	337	45.4	43.9	5.9	4.7	
	子ども有	732	32.4	44.9	16.9	5.7	
女性	全体	1370	42.6	45.8	7.8	3.8	
	子ども無	260	50.4	44.2	3.8	1.5	
	子ども有	1110	40.7	46.2	8.7	4.3	

男性・子どもの有無 p<.001 女性・子どもの有無 p<.01

表15-29 (ケ) 自分の自由な時間がもてなくなる

		N	そう思う	どちらかといえば		どちらかといえば	
				そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1068	22.5	41.9	23.5	12.2	
	子ども無	337	35.6	41.8	15.1	7.4	
	子ども有	731	16.4	41.9	27.4	14.4	
女性	全体	1371	31.3	47.3	14.3	7.1	
	子ども無	260	46.5	45.8	5.0	2.7	
	子ども有	1111	27.7	47.6	16.5	8.2	

男性・子どもの有無 p<.001 女性・子どもの有無 p<.001

表15-30 (コ) 仕事が十分にできなくなる

		N	そう思う	どちらかといえば		どちらかといえば	
				そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1068	5.0	14.7	40.0	40.4	
	子ども無	338	8.6	18.9	43.8	28.7	
	子ども有	730	3.3	12.7	38.2	45.8	
女性	全体	1361	22.3	44.8	21.4	11.5	
	子ども無	261	36.4	51.0	8.8	3.8	
	子ども有	1100	18.9	43.4	24.4	13.4	

男性・子どもの有無 p<.001 女性・子どもの有無 p<.001

表15-31 (サ) 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない

		N	そう思う	どちらかといえば		どちらかといえば	
				そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1067	3.5	9.8	38.3	48.4	
	子ども無	335	6.6	15.5	36.7	41.2	
	子ども有	732	2.0	7.2	39.1	51.6	
女性	全体	1366	6.4	19.5	40.0	34.0	
	子ども無	256	5.9	23.4	48.4	22.3	
	子ども有	1110	6.6	18.6	38.1	36.8	

男性・子どもの有無 p<.001 女性・子どもの有無 p<.001

表15-32 (シ) 社会から取り残されたような気になる

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1068	2.6	3.8	24.1	69.5
	子ども無	336	4.5	5.7	29.5	60.4
	子ども有	732	1.8	3.0	21.6	73.6
女性	全体	1370	6.9	16.9	31.2	45.0
	子ども無	259	7.3	18.9	37.8	35.9
	子ども有	1111	6.8	16.5	29.6	47.2

男性・子どもの有無 p<.001 女性・子どもの有無 p<.05

ついでに、男女別・子どもの有無別に、配偶状態の違いにより子産み・子育てにともなう負担感に差があるかどうか検討したが、男女ともに、子どものいない有配偶者と無配偶者、子どものいる有配偶者と無配偶者との間に、ほとんどの項目において統計的な有意差が認められなかった。しいて言えば、「子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない」という項目において、子どものいる男性で、有配偶者と無配偶者とに有意差があり、無配偶者のほうが、幾分「そう思う」という比率が高いという結果になっていることを付け加えておく。

子産み・子育てがもたらすよい面については、男女ともに、子どものいる人よりもいない人のほうが実感しにくいということは理解しやすいが、子産み・子育てにともなう負担感が、男女ともに、子どものいる人よりも子どものいない人において有意に高いという結果は、意外といえ言えるだろう。しかし、子どものいない男女において、子産み・子育てがもたらすよい面がさほど評価されておらず、逆に、「子育てによる心身の疲れが大きい」、「子育てで出費がかさむ」、「自分の自由な時間がもてなくなる」、「仕事が十分にできなくなる」といった子産み・子育てにともなう負担感が、実際に子どもを産み育てている人々以上に実感されているということが、子どものいない人々に、子どもを産み育てることを躊躇させている大きな要因であると推察することができる。

15-3 親としての社会的責任感

子産み・子育てに関わる意識として、親としての社会的責任感についても、男女差や世代差を検討する。

親としての社会的責任感を問う質問項目として、「親としての重い責任を感じる」かどうか、そして、「児童や生徒が犯罪や非行を犯した場合、親の責任が問われるべきだ」と思うかどうか、という2項目を用いることにする。

図15-9と図15-10は、親としての責任感の男女差をみたものである。「親としての重い責任を感じる」かどうかでは男女差はみられないが、「児童や生徒が犯罪や非行を犯した場合、親の責任が問われるべきだ」という項目では、「そう思う」という意識が、女性は49%に対して男性は53%と、有意に高くなっている。

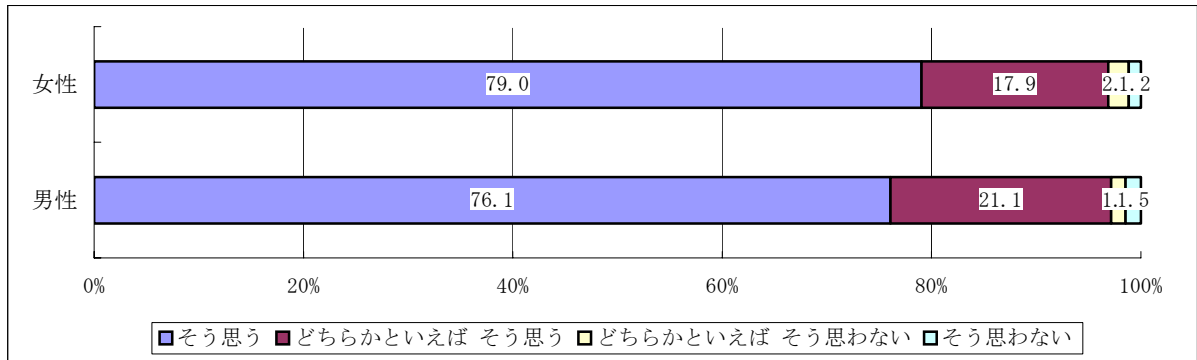


図 15-9 親としての重い責任を感じる

図 15-10 児童や生徒が犯罪や非行を犯した場合、親の責任が問われるべきだ

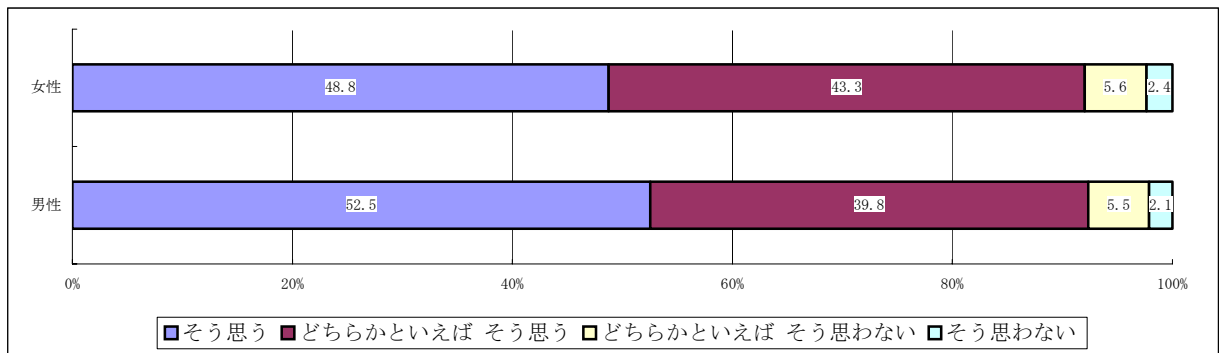


表 15-33 は、男女それぞれについて、世代差と「親としての重い責任を感じる」意識との関連をみたものであるが、男女ともに、世代による違いはみられない。次いで、表 15-34 は、「児童や生徒が犯罪や非行を犯した場合、親の責任が問われるべきだ」という意見について世代差をみたものであるが、男性の場合は、有意差はみられないが、女性の場合は、28-32 歳において、それ以上の世代と比べて、「そう思う」という意見が低くなっている。

なお、親としての責任感について、子どもの有無、配偶状態の違いとの関連も検討したが、男女ともに、いずれも、統計的な有意差はみられなかった。

表15-33 親としての重い責任を感じる

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1095	76.1	21.1	1.4	1.5
	28-32歳	279	80.3	16.8	1.4	1.4
	33-37歳	264	76.1	19.7	1.5	2.7
	38-42歳	281	76.9	21.7	0.7	0.7
	43-47歳	271	70.8	26.2	1.8	1.1
女性	全体	1383	79.0	17.9	2.0	1.2
	28-32歳	331	81.3	15.1	3.0	0.6
	33-37歳	353	78.5	18.7	1.4	1.4
	38-42歳	377	77.5	19.1	2.1	1.3
	43-47歳	322	79.2	18.3	1.2	1.2

男性・世代差 n. s. 女性・世代差 n. s.

表15-34 児童や生徒が犯罪や非行を犯した場合、親の責任が問われるべきだ

		N	どちらかといえば		どちらかといえば	
			そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
男性	全体	1102	51.9	41.4	4.8	1.9
	28-32歳	279	49.8	40.9	5.7	3.6
	33-37歳	266	53.0	40.6	4.5	1.9
	38-42歳	284	53.9	39.4	5.3	1.4
	43-47歳	273	50.9	44.7	3.7	0.7
女性	全体	1391	45.4	47.1	5.2	2.3
	28-32歳	337	37.7	55.5	5.0	1.8
	33-37歳	348	46.0	46.8	4.9	2.3
	38-42歳	380	49.5	42.4	4.7	3.4
	43-47歳	326	48.2	44.2	6.1	1.5

男性・世代差 n. s. 女性・世代差 p<.05

15-4 小括

子産み・子育てのよい面の評価について言えば、男女ともに、「家族の結びつきが深まる」、「子どもとのふれあいが楽しい」という意識の支持率が高く、有意差はみられない。それにたいして「仕事に、はりあいができる」ことは、男性が女性よりも子産み・子育てのよい面と捉える傾向が高く、「子育てを通じて自分の友人が増える」とことと「子育てを通じて、自分が成長できる」ことでは、女性が男性よりも、子産み・子育てのよい面と捉える傾向が高い。総じて、子産み・子育てのよい面の捉え方は、無配偶よりは有配偶のほうが、また、子どものいない人よりは子どものいる人のほうが、より肯定的に評価する傾向がみられる。また、女性に限って、子どもの有無別に、有職者と無職者と比べてみると、子産み・子育てのよい面の評価について有意差はみられなかった。子産み・子育てのよい面の評価は、有職か無職かという違いよりも、子どもの有無による違いが大きいのである。

子産み・子育ての負担感は、すべての項目において、男性よりも女性が高くなっている。男女ともに、「子育てで出費がかさむ」という負担感が最も高く、次いで、「自分の自由な時間がもてなくなる」という負担感が高い。しかし、これらの負担感は、男女ともに、有配偶者よりも無配偶者において、また、子どものいる人よりも子どものいない人のほうが高いのである。子産み・子育てにともなう負担感が、有配偶、有職、子どものいる男性に

において相対的に低く、他方、無配偶、子どものいない女性の負担感が高い傾向が顕著である。子どものいない男女が、子産み・子育てのよい面をさほど評価しておらず、しかも、子産み・子育ての負担感をイメージとして相当に感じていることが、現在の自由な時間、現在の経済生活、現在の仕事を犠牲にしてまで、子どもを産み・育てることを躊躇させている大きな要因になっているものと解釈できる。

親としての責任感については、男女差、子どもの有無、配偶状態の違いなどによる有意差はみられなかった。